



鶏 けいめい 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

パウロの言葉

「ユダヤ人はしるしを求め、ギリシャ人は知恵を探しますが、わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝えています」聖書(第1コリント書1章23節)

牧師 河合裕志

ここでパウロは「ユダヤ人はしるしを求め」と言っている。しるしは人々をアッと驚かせるような奇跡、証拠のこと。かつて悪魔はイエスを誘惑して言った。「神の子なら、これらの石がパンとなるように命じたらどうだ」。これにイエスが応えて、エイトばかりに石をパンにしたら、これはすごい奇跡、神の子の証拠となる。

ユダヤ人はそのようなしるしを求めている。そんな彼らからすれば「十字架につけられたキリスト」はアホの骨頂だった。なんでそんな者が神の子なのか、メシア(救い主)なのか。それは敗北者の姿、「神に呪われたもの」(申命記21章23節)ではないか。そうした者をクリスチャンは有難がっている。以前のパウロであればそんな連中は偽メシアを宣伝する者としてとても許せるものではなかった。

次にパウロは「ギリシャ人は知恵を探します」と言った。ギリシャはソクラテス、プラトンの昔から哲学の盛んな地域。哲学は「世界・人生・事物の究極のあり方や根本原理を理性によってきわめようとする学問」。彼らは理性、あるいは知恵を尽してこの探求に当った。知能のすぐれた人々。

こうした彼らからすると「十字架につけ

られたキリスト」が救いだ、とするキリスト教の教えはこれまた真に「愚かな」ものにうつつた。パウロがアテネに乗り込んでキリストを伝えようとし、エピクロス派やストア派の哲学者と討論したが彼らの反応は極めて冷やか、嘲笑的だった。「このおしゃべりは、何を言いたいのだろうか」(使徒言行録17章18節)と軽くあしらわれた。

こうしたユダヤ人やギリシャ人に対して「わたしたちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えています」とパウロは言う。愚かとみなされてもいい。しかし「召された者には、神の力、神の知恵であるキリストを宣べ伝えているのです」(1コリント1章24節)。

「十字架につけられたキリスト」には神の力が示されている。神の力は天地の創造の方面だけでなく人類救済の方面にも発揮されている。十字架のキリストにわが罪の犠牲を見る者の罪を赦し永遠の命を与えることが出来るということ。また「神の知恵」は神が熟慮の結果、愛する独り子イエスを十字架につけて人を救うという、誰もが思いつかないような方法手段を講じたところに遺憾なく発揮されている。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時